

2009 年度

板倉 初日本代表へ

10月の世界ハーフマラソン

板倉(大塚製薬)代表入り

日本陸連は6日、世界ハーフマラソン選手権(10月11日・英ハミンガム)の代表として、世界選手権(8月・ベルリン)マラソン代表の赤羽有紀子(ホクレン)ら男女各5選手を発表した。代表選手は次の通り。男子 佐藤悠(中国電力)、北崎浩(エー)、尾田賢典(トヨタ自動車)、福山裕(アムサ)

ラドサレ(大塚製薬)・李(中村製書)、中嶋(中嶋製薬)、木崎(トヨタ)、正井(日本ミヨシ) 赤羽有紀子

大塚製薬・板倉具視(大塚製薬)が日本代表に選ばれたのは初めて。時差調整、食事の違いなど、海外の大会だからこそ積める経験が多いはず。ステップアップにつながるように準備から取り組みたい。

徳島新聞 7/7

英国パーミンガムで11日に行われる世界ハーフマラソン選手権に板倉具視(大塚製薬)が日本代表(男女各5人)の一員として出場する。日の丸を背負うのも、海外でのレースも初めてとなるが「自己ベストを更新したい」と意欲をみせている。(城福章裕)

世界ハーフマラソン出場 板倉具視(大塚製薬)

板倉は月に行われた札幌国際ハーフで、それまでの自己ベスト(時間3分54秒)を1分近く縮める1時間58秒で11位(日本人3位)に入った。イブニングで最後まで走り抜くのが特長で、レース後半も1分58秒前後のペースを維持。次々前を行く選手をさえ代表の座を手にした。

広島県福山市出身の25歳。陸上は小学6年生で本格的に始めた。中学までは福山市で過ごし、高校から陸上長距離の名門校である京都・立命館宇治高に進み順大を経て2007年、大塚製薬陸上部に入部した。中学、高校と全国大会で活躍。大学では4年生

のときに箱根駅伝で8区もの「気持ちの入った練習を継続してできなかった」と振り返る。「3年目標を達成した」と心刻んで臨んだ今季、ようやく結果を残すことが福山市出身の弘山晴美(倉生堂、鴨門高一)と

自己ベスト更新に意欲



世界選手権へ向け順調な仕上がりを示す板倉。鴨門市撫養町の大塚製薬工場

初代表 飛躍への契機に

士強(大塚)だった。第一線の最後のレースとなった弘山には、沿道から送られることなく応援が送られた。近々で走っていた板倉も、その応援を肌で感じた。「自分も応援される選手になりたい」。練習メニューはこれまでほとんど変わらなかったが、一本一本を大切に走る意欲が高まったという。

世界選手権の代表決定後は、全国各地の実業団からトップ選手が集まる合宿などに参加し、練習を重ねてきた。多いときは40kmを走り込み、スタミナを強化。現在は自己ベストを上回る1時間29分55秒のペースで1分、3分の短い距離を繰り返して走り、スピードを体に覚え込ませている。

「札幌国際の前より体調はいい」と自信をのぞかせる。ロードレースの本格的な練習開始となる大会で強要を相手に結果を残し、さらなる飛躍につなげる。

徳島新聞 10/6